

川の恵みと治水

川の恵み

宗谷山と龍ノ口山の間を、龍ノ口山にそって、中原の東を流れ下った旭川は、岡山平野に流れ出て、岡山平野を、暴れ川の異名をとるほどに、幾筋もの流れとなって内海に注いでいた。そして、その本流は東から西へとその流路を変えていた。

江戸前期、新田開発に伴い祇園大樋の建造のための、中井手の設置により、旭川は、龍ノ口山の西で大きく2つに分かれ、中原を挟んで東の大川・西の大川と言われる流となった。
この頃の中原は、四面川に囲まれ、地下水も湧き出る地域で、野の恵み・川の恵みが豊富な地域であった。

治水

洪水のたびに水没の憂き目を見、堤防の建設や家屋の土台を高くする石垣積みなど、集落総出で取り組まれてきた。

そして、国の治水対策として、龍ノ口山の裾から下ノ原まで旭川西大川左岸の堤防建設工事が取り組まれた。

その経緯は、

昭和7年着工し、途中昭和16年太平洋戦争(第二次大戦)勃発により工事中断。

昭和20年終戦により、工事再開。

昭和29年完成。(遊水地として浸水被害は解消していない)

平成13年洪水による被害を解消するため、下ノ原から百間川左岸堤防に繋がる旭川左岸堤防を計画作工。

平成16年竣工。

岡山城築城後の主な洪水

承応 3 年 (1654年)

延宝 元 年 (1673年)

延宝 2 年 (1674年)

元禄15	年	(1702年)
宝永 4	年	(1707年)
宝永 5	年	(1708年)
正徳 2	年	(1712年)
享保 元	年	(1716年)
文政 3	年	(1820年)
明治 4	年	(1871年)
明治 5	年	(1872年)
明治13	年	(1880年)
明治14	年	(1881年)
明治19	年	(1886年)
明治25	年	(1892年)
明治26	年	(1893年)
昭和 9	年	(1934年)
昭和20年	年	(1945年)
昭和47	年	(1972年)
平成10	年	(1998年)

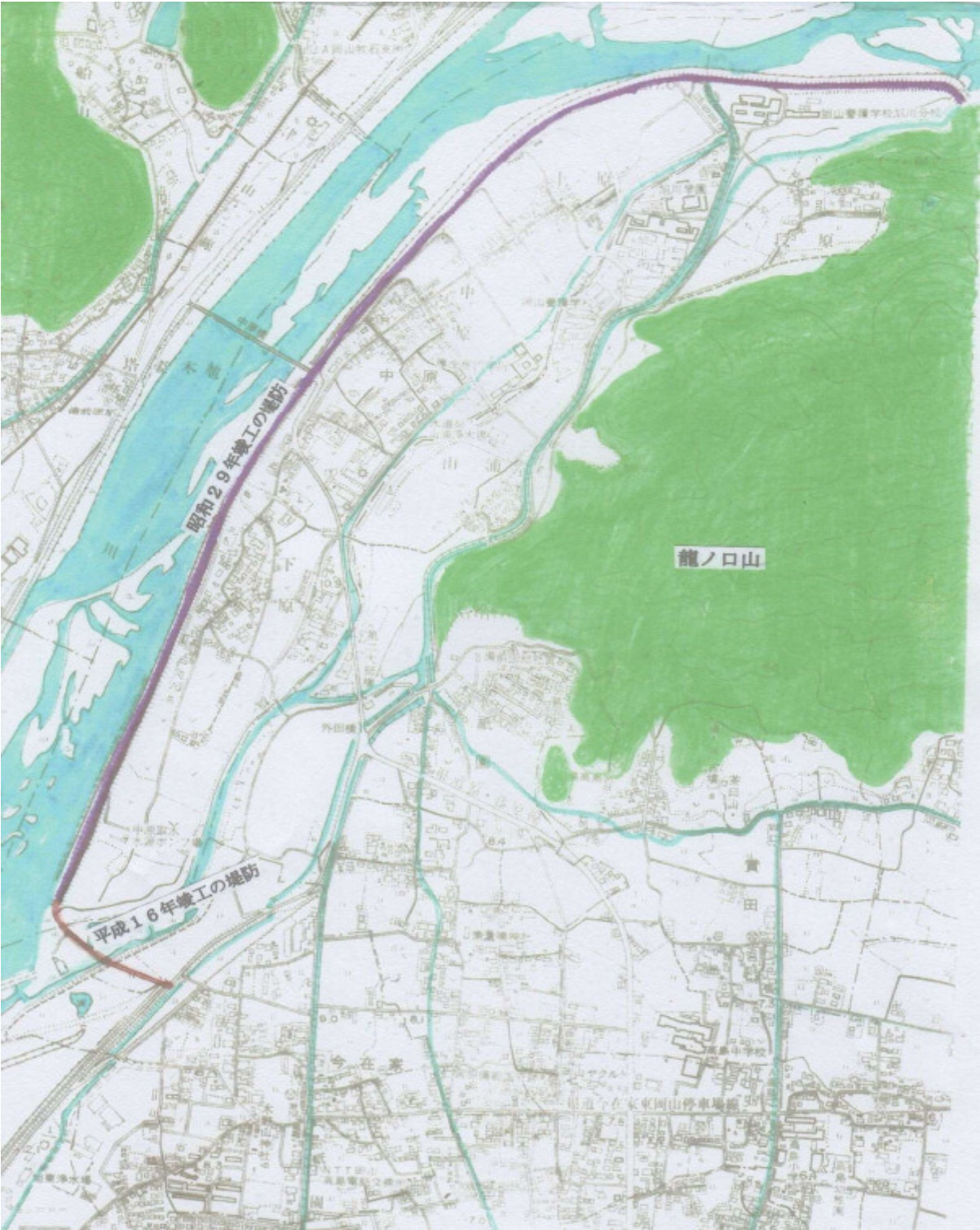
川の流れのない地域

旭川の大川に囲まれ水の豊かな地域であった中原村は、備前平野の灌概の取水口で取水関(中井手)の設置、昭和26年には、玉柏(宮本)で旭川の水を堰止め、大量の水を玉柏(河本)で東西に分流する合同用水路を建設、中原へは、旭川の下(地下)を通して祇園大樋に導いている。

水漏れのない用水路と合わせて、昭和31年に社会福祉法人旭川荘の施設が元東大川であった旭川の河川敷に建設し、水の流れを止めた結果、中原の地域は川の流れのない地域となり、用水は地下ポンプで汲み上げ生活に供している。

平成9年要望により、段原川からサイホンにより中原川へ水の導入を図ったが備前平野の要水との関連で大量に導入することができず、流れのない溝川と姿を変えている。

堤防竣工図



井関

藩政時代に建造された中原地区の井関の石組

清水井関



上ノ瀬井関(横井関)



明星井関(明星関)



位置図

